竜門司焼古窯

【所　在　地】姶良市加治木町小山田 6095
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 42 年３月 31 日

竜門司焼古窯は，加治木の市街地から北へ約４ km，県道栗野加治木線沿いの右側にある。

初代加治木領主島津忠朗は，寛文年間（1660 年代）に帰化した朝鮮陶工芳珍の孫で鹿児島田之浦にて製陶に従事していた小右衛門（のちの山元碗右衛門）に反土棚目で開窯させた。その後，小山田高崎に竜門司焼を開窯し，現在地に移ったのが享保の初め頃と推定されている。

古窯は長さ約 19m の連房式の登窯で昭和 30 年まで使われていた。また，窯の大きさの割合に対して入口が小さいのが特徴である。

〈参考〉

●山元碗右衛門　渡来陶工芳珍の孫で小右衛門と名乗った。初め田之浦窯で城の修復用瓦を焼いていたが，やがて小野元立に招かれて帖佐の元立院窯の細工人となり，肥前の陶工北村伝右衛門に製陶の技術を習った。加治木領主島津忠朗に命ぜられて寛文７（1667）年頃, 加治木山元に肥前式登窯の山元窯を開き山元小右衛門の名を称した。のち元禄元（1688）年，竜門司高崎に移り，享保３（1718）年には龍門司茶碗屋に築窯した。